

啐啄

平成 27 年 5 月 1 日刊行 No.7
 編集・発行 大島町教育委員会
 教育文化課事務局
 TEL 04992-2-1453
 題字「井島 吉春」

別れと出会い

教育委員長 白井 良平

3月上旬に行われた大島高校（定時制・全日制）と海洋国際高校の卒業式。2校の全日制の会場は、まだ冬の名残漂う寒い体育館でしたが、厳粛な雰囲気の中で旅立ちの時を迎えた卒業生たちの凛とした姿が印象的で、いつもながらの感動を味わわせていただきました。

一方で、校舎内の音楽室を会場として挙行された大島高校定時制の卒業式。こちらは家族的で温かい空気に包まれ、卒業生と在校生と先生方、さらに保護者の方々が一体感をつくりあげ、見ていてとても心が和みました。

大島桜が満開となった20日と24日には、町立の中学校と小学校の卒業式が行われました。今回の私は北部の第二中学校とさくら小学校に出席し、祝辞を述べさせていただきました。



第二中学校では「頭のよい人になって下さい。頭のよい人というのは学習成績が高いという意味ではありません。東京大学を出ていても頭の悪い人はいるし、みなさんのすぐ隣にも頭のよい人はいます。頭がよいというのは…」という話をしました。

また、さくら小学校では「さくら小学校は今年で10周年を迎えましたが、北の山小学校と岡田小学校と泉津小学校が一緒になってできた学校です。北の山地区の人たちは、昔から汗と涙で畑を耕し…。岡田地区の人たちは、目の前の大海原で漁をし、海の幸をいただきながら…。大島で唯一、朝日を浴びる泉津地区の人たちは、よく育つ果物を食しながら広い山で…。」という話をしましたが、緊張している子供たちの興味を引くことはできなかったかも知れません。

こうして大島の18歳・15歳・12歳の児童生徒たちは、今まで慣れ親しんできた学校に別れを告げ、新しい世界へ向かって進みます。が、その後にもう一度、別れの場面を目にする時が来ます。それは、離島する生徒や先生方を見送る港での別れです。特に大型船で島を出る先生方への子供たちや保護者、関係者によるお見送りは盛大で、色とりどりの紙テープを張り、校歌を合唱し、船が桟橋を離れるときには、それと並行して走り出し、先端まで行って手を振り続けます。転出された先生方にとって、このシーンは一生忘れられないものだと思います。3月末の、大島の風物詩と言ってもいいかも知れませんね。

さて、別れのあとは出会いが待っています。4月2日には、島内異動と島外から着任した教職員についての辞令伝達式が行われ、一人ずつ辞令をお渡ししましたが、みなさんの目は輝き、しっかりした態度や姿勢にやる気が漲っていました。ここでは、「早く島の生活に慣れると共に、1年目は見る・聞く・知る。2年目は試す・やる・変える。3年目は確かめる・見直す・続ける。という認識をもって取り組んで下さい。」という願いをしました。次は、各校の入学式で様々な出会いが待っているわけですが、その日はまだ来ていません。



大島で育った子供たちがそれぞれの能力を伸ばし、素晴らしい人生を送ってくれるよう祈ると共に、少しでもお役に立てればと今年度も微力を尽くして参りますので、よろしくお願い申し上げます。

好きな先生 嫌いな先生

教育委員長職務代理者 井島 吉春

新しい年度となり、子ども達は各学校で、それぞれの先生方に指導を受けている。新学年になった時、今度の担任は誰だろう、部活の顧問は変わるのかなあと期待と不安が入り交じった複雑な心持ちで登校するだろうが、これも学校生活の楽しみのひとつである。期待通りの先生だと心も晴れ晴れ、気力もやる気も何でも出るが、期待はずれだと「エー、もう学校なんか行きたくない。」と、おまっくら、暗雲の世界へと進みそうになる。先生方には大変失礼かも知れないが、これが現実であり、誰もが当然子どもの時経験してきたことなので、うなずいてくれると思う。何しろ嫌いなものは嫌いなのである。イヤだなあと思う先生でも、いざ指導を受けてみると、今まで以上に実力が上がることもあるし、逆にイイなと思う先生だったとしても実際に教えてもらおうと、なかなか思うように向上しないこともある。

私の学生時代、ある教科の先生は学生達にとっても人気があり、いつも教室は満杯という状態だった。先輩からもあの先生の授業は楽しいし、単位も取りやすいのでおすすめだと言われたので、その先生の授業を取ってみた。噂通り多くの学生達が詰めかけ、内容もそれなりに良く、なるほどなあと考えた。一方、人気の無い先生の授業も必修課題だったので、仕方なく受けたが、宿題は多く授業中あれこれ文句も言われ、とてもイヤミな先生で大

嫌いで大変だったが、何とか卒業まで持ちこたえた。

その後三十年程経つが、あの時人気のあった先生の講義は、楽しかった、いい先生だったという思い出だけが残り、確かに学校へ行く楽しみにはなったが、他方イヤミな先生の教えは今もしっかり頭に残っているし、現在も引き続き学び親しんでいる。先生方の指導力とは、学生の反応に必ずしも比例しないのだと実感した。

ああ、あの時イヤミな先生にいろいろ質問し、もっとしっかりやっとけば良かったなあと後悔もするが、かえって今はその分を取り戻そうと学ぶ意欲もわいてくる。

各学校の先生方、毎日いろいろなことであろうが、生徒達から嫌われないようにしよう、好かれるように振舞おうなど考えず、どうか自分の指導方針に自信を持って、思いっきり指導力を発揮してほしい。何十年か後に先生方のまた種は必ずや何らかの形で花開くであろう。教育の現場には、好きな先生、嫌いな先生、それぞれなくてはならない尊い存在なのである。

日本の食料自給率に思う

教育委員 藤田 月

すでに何年も問題とされていますが、我が国、日本の食料自給率は戦後大きく低下の一途を辿り、昭和40年度（私が小学生だった頃）は約70%だった自給率が、平成25年度には約40%まで落ち込みました。

これは我が国の食生活がこの数十年の間に大きく変化したことが大きな要因の一つであるとされています。以前は米・野菜などの自給可能な食べ物が中心だった食生活が冷凍・加工食品に変化してきています。そしてこれらの食品は原料の多くを輸入に頼っています。最近では冷凍・加工食品そのままを輸入しているのが現状です。日本はエネルギー資源も乏しく、食料品も外国に頼らざるを得ない国になってしまいました。そして、少子化により人不足、人材不足も危ぶまれています。

世界人口の増加やバイオ燃料の需要増加でトウモロコシ、大豆、小麦等の食料価格の高騰が続いています。又、国際的な食料危機が発生すると各国は自国の需給や物価を優先し、国外への食料輸出を抑制します。これによって食料の多くを輸入に頼っている日本においては食料の安定的な供給、価格に多大な影響が及ぶ恐れがあります。国際情勢によって大きく変化させられる日本経済であってはならないと思います。

食料の安定的な供給、価格についてはまぎれもなく国内の農業生産の増大を図ることが重要であるとされています。大企業の農業経営への参入もここ数年増えてきていますが、たくさんの規制や農家とのバランス又、TPP（環太平洋経済連携協定）への参加問題等いろいろな課題が残されています。

消費と生産の両面から食料を見直していくことが必要であるとされていますが国や行政、企業ばかりでなく、私たち国民一人ひとりが考え、行動していかなければならない問題であると思います。

私たちは、日本の食料自給率アップに向けて、国産牛肉等どうしても価格が高騰になる食品をもっと安く消費者に提供できるようなシステムに変え、安全で世界に誇れる国産物を少しでも多く食べ、食べ残しなどによる食品廃棄を無くし、日本人の健康と美しい環境を守り、そして子供たちの未来のためにも日本の食文化を大切にしていきたいものです。



給食試食会

教育委員 岡山 日出子

2月中旬、元町にある給食センターでの試食会に参加させていただく機会がありました。献立はご飯、豆腐の味噌汁、鶏のチーズ焼き、ひじきの煮物そして大島牛乳だったと思います。どれもとても美味しくいただきました。

給食といえば、今はもう義務教育を卒業した二人の息子たちはいつも楽しみにしていて、毎日のように『おかわりした！』と話していましたし、私自身も保護者として夏休み等は普段は当たり前の給食のありがたさを実感したものです。本当に皆でお世話になりました。

今回、そんな給食の献立を考え、作ってくださっている管理栄養士さんの話を直接伺って初めて目の給食に込められた思いを知りました。まず、献立はバランスはもちろんのことできるだけ地元大島の旬のものを美味しく食べられるよう、季節の行事を楽しめるよう工夫されています。また、天気によっては物流が止まってしまう大島で食材を調達し、時には大島中を走り回って欠食にならないよう努めてくださっているのです。中でもアレルギーのある児童・生徒の細かいリストはどの子どもたちにも一緒に給食をとる思いが強く感じられました。

子どもたちが毎日いただく給食、顔は見えないけれどその一食一食に給食センターの皆さんの努力と願いが詰まっているのですね。こどもたちが食している間『今日の献立は皆好きかな？沢山食べてくれるかな？残さないでくれるかな？』と一喜一憂している様子が目に浮かぶようです。

色々なお話を伺い、良い経験をさせていただきました。ご馳走様でした。

家庭学習の習慣化について

教育長 石川 龍治

保育園から高校にいたるまで、全ての園学校では新しい児童生徒が、輝いた瞳と、はつらつとした面持ちで新学期を迎えていることと思います。受け入れ側も同じように新たに預かった、この地域の宝をどのように磨き育てるかを真直に思い描きつつその指導を実践しているところだと思えます。

一方大島の子どもたちの学力についての懸念の声がかなり以前よりあったことはご承知の向きも多かろうと思えます。事実、小中における学力調査の結果を見ると全国平均に比べ、わが大島の子どもたちは10ポイントほど低く、教科によってはそれ以上のポイント差が見られます。さてその理由はどこにあるのでしょうか。子どもたちの資質に差があるとは考えられません。取り巻く環境の違いでしょうか。いろいろな環境が考えられますが、何が大きく影響をするのかということです。

よく例に出される秋田県のお話。かつては全国でも低いほうの位置だったそうです。今は全国トップレベルとか。全県民をあげこどもに勉強をさせたのでしょ。そこで、小中学校の児童生徒の一日の学習時間3時間以上の割合を全国平均と比べるという調査、驚いたことに以下の結果だそうです。小学生で3時間以上学習する子どもの割合は、全国平均11%に対し秋田県3%、中学生でも全国平均10.5%、秋田県5%。もうひとつの調査が、分からなかったところをやり直すという割合です。小学生で全国平均17%に対し秋田県38.8%。中学生でも全国平均11%、秋田県24%。学習に限らず、うまく出来なかった事柄への取り組みの見直し、という復習を普段の生活の中で実施する姿勢が培われているということです。

これは先般、平成27年度教育施策連絡協議会の折にパネルディスカッションのパネラーとして参加されていた、「株式会社ベネッセホールディングスの成島由美氏」のお話にあった内容の一部です。印象的な部分の抜粋ですので御了承ください。

ここ大島には学習塾はないに等しいと思えます。それ故、学校の学習指導が全てという意識で学校には取り組んでいただいているところです。大島町の教育は、家庭、学校、地域がそれぞれの立場で連携し全ての町民が参加することを目指すことが教育目標に示されています。これは「教育基本法」13条にもあるところです。また同法には、6条の学校教育と並び10条には保護者が子どもの教育に持つ家庭教育としての責任も示されており。そして、家庭と学校と地域がそれぞれの役割を認識し連携して、一人ひとりの子どもをそれぞれの立場から、育てて行きたいと改めて今思っているところです。

学校においては基礎・基本の定着と発展を目指して、家庭においては基本的な生活習慣と自ら取り組む態度を身に付けさせることを目指して。家庭学習の習慣化が実現できたら子どもたちの、身に付けるべき力をもっともっと高いところに定着すると思えます。今の子どもたちが働くとき、今現在は存在しない職に65%が就くと言われていています。持っている知識を活用し、情報を分析理解し、新しい事柄に対応して行く能力が必要とされるかも知れません。15年後の社会は今と大きく変化しているかもしれません。自ら切り拓くことが必要な社会になるように思われます。

大島ネット・ゲームの三カ条

大島町立小中学校では、児童生徒及び保護者向けにネット・ゲーム機器によるトラブル防止や使用についての注意喚起をうながす「大島ネット・ゲームの三カ条」を配布しました。大島でもネット（ライン等）によるトラブルがこれまでもいくつか起きています。さらに、子どもたち



の学習にも悪影響を与えています。ネットやゲームの使用については各家庭でのルールづくりや保護者の教育が欠かせません。島っ子の健全育成のために町民の皆さんも見守っていきましょう。また、配布した内容や子どもたちのネット等の活用実態（3月に調査済み）について知りたい場合は、各学校に問い合わせてください。

つばき小学校の平成27年度がスタートしました。1年生27名を加え、総勢140名の子供たちと32名の教職員での船出です。今年度のつばき小学校の学校経営におけるキーワードは、「学校は、子供のためにある」を基本理念に、「不易と流行」を掲げています。「不易」は、『人として変わらないこと、今も昔も変わらない・変えてはならないこと⇒基礎基本、規範意識、心身の健康等』と捉え、また、「流行」は、『今の時代が求めていること、改善される・されなければならないこと⇒思考・判断・表現力（課題解決力）、国際理解力、協働学習力等』と捉えています。これからの社会を生き抜いていく子供たちにとって、まさに、「不易」と「流行」のバランスのとれた、また、「不易」と「流行」が土台となる教育が大切だと考えています。上記の学校経営方針（計画）のキーワードを念頭におきつつ、全教職員一丸となって教育活動に取り組んで参ります。本年度も、御支援と御協力をよろしくお願いいたします。



勇気づけ3か条
さくら小の先生は、
子供をほめる先生
子供の手本となる先生
子供に「ありがとう」と
言える先生

さくら小学校の教育目標「やさしさ つよさ たくましさのある さくら小の子」
今年度も「たくましさ」を重点目標とし、学力向上に向け、授業改善を行います。「さくら小 学習スタンダードの確立」です。朝学習の実施。そして児童用「まなブック」教師用「プロフェッショナルティーチャーズブック」を作成・活用。「児童が主体的な学習力を身に付けるための指導の

工夫」を研究・実践してまいります。言語活動の充実と読み解く力の向上を目指します。また、「勇気づけ3か条」を実践し、児童の自己肯定感を高めてまいります。さらに児童・保護者に向けた「さくら小生活モデル」を配布し、望ましい基本的な生活習慣の定着を図っていきます。

つつじ小学校は、開校7年目を迎えました。昨年度まで、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、日々、全力で教育活動に取り組んでまいりました。今年度は、「自律と自立の基盤を作る、鍛えを基本とした学校の構築」という新たな学校経営方針のもと、教職員一同、つつじっ子たちをさらに成長させていきたいと思っています。つつじ小の新たな一歩にご期待ください。

○つつじ小学校の1年間の主な学校行事

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 4月・1年生を迎える会、春の全校遠足 | 10月・小中合同運動会、校外学習 |
| 5月・学力テスト、スポーツテスト | 11月・学習充実月間（新規） |
| 6月・移動教室、自然体験教室、プール開き | 12月・学芸会 |
| 7月・キャンプ、サマースクール | 1月・書き初め会、百人一首大会、合同作品展、マラソン大会 |
| 8月・校内水泳大会 | 2月・音楽会 |
| 9月・夏休み作品展 | 3月・6年生を送る会、大島一周 |

○つつじ小学校の主な教育実践

- ・「学びのてびき書&学びのワークシート（改訂版）」を核とした授業の推進とその改善
- ・朝読書・朝学習の励行、放課後マナビー教室、東京ベーシック・ドリルの活用
- ・国算の基礎基本を中心とした家庭学習の充実
- ・第三中学校との様々な行事および学力向上連携の推進

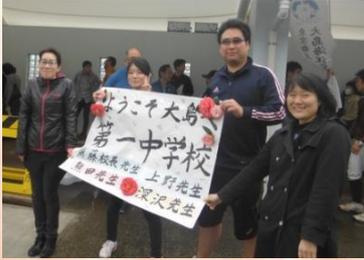


※学校行事の詳細な日時については、本校HPにてご確認ください。
<http://town.oshima.tokyo.jp/~tsutsuji/>

第一中学校は平成27年度入学生23名を迎え、79名でスタートしました。教職員も齋藤裕（ゆたか）校長以下5名の赴任者がありました。

本年度の取り組みで大きく変わったことは、英語科において少人数・習熟度別指導が始まることです。これによって英語科の教員が2名配置され、生徒の実態と希望に合ったクラス編成で指導を行うことができるようになりました。

本校では基礎基本の確実な定着を図りながら、3年間の全員の共通目標として、「大島について100語以上の英文で紹介することができる」としました。これから指導方法の工夫・改善を重ねながら生徒の英語力向上に精一杯取り組みます。



第二中学校

平成27年度がスタートしました。新一年生32名が第二中学校に入学し、今年度は全校生徒が73名となりました。また、教職員も8名が異動し、新たなスタートを切りました。昨年度は、校舎3階と校舎外回りの大規模改修工事を無事終え、また、旧教職員住宅跡地にテニスコート1面を建設。今年度は、校舎1・2階の大規模改修工事を予定しています。全校生徒も増えたことで、変えていく部分も出てきますが、今まで築き上げてきた伝統を継承しつつも、改善の必要なところは改善し前向きな姿勢で教育活動を展開していきたいと思えます。特に今年度は、授業を受ける姿勢、そして、生徒会活動における自治的な活動を重視していきますので、御支援・御協力をお願いします。



東北・大島・広島をつなぐ絆 第三中学校



生徒会では、平成26年11月8日（土）つつじ小学芸会および11月22日（土）三中文化祭、11月17日（月）～11月21日（金）あいさつ運動期間において「広島市土砂災害募金活動」を行ったところ、多くの皆さんからご賛同をいただき11万7979円もの義援金を集めることができました。これを12月11日（木）に生徒会役員が代表として大島町に届けたところ、町長室で川島理史町長さんと石川龍治教育長さんが直接対応していただき、募金活動の趣旨や活動内容などを説明してきました。また、生徒会では菜の花を大島復興のシンボルにしていく「菜の花プロジェクト」を企画し、その趣旨も町長さんへ説明しました。この菜の花は、大震災で被害を受けた東北三県の小中学校で育てられた種を三中で譲り受けて育て増やしたもので、町内で広めてもらうため小中学校や役場及び出張所に送ったほか、昨年8月の土砂災害で被害を受けた広島市安佐南区と安佐北区の全小中学校80校に菜の花の種を送りました。そして、広島市の小中学校より、沢山のお礼状をいただきました。今後も、これを機に交流を深めていきたいと思えます。

教育委員会カレンダー（5月～8月）

月	日	内容	場所
5	23	大島町体育祭ゲートボール大会	伊豆大島ゲートボール場
	31	大島町体育祭バレーボール大会（婦人の部）	都立大島高等学校体育館
7	31	大島町体育祭水泳大会	第三中学校プール（予定）
8	30～	大島町体育祭野球大会（一般の部）	大島町野球場 他

事務局からのお知らせ等

学校教育係	社会教育係									
<p>○平成27年3月、第二中学校テニスコートが完成しました。 4月に引き渡しをいたしました。今後のクラブ活動に活用していただきます。</p> <p>○平成26年9月に第1期工事で3階部分と外周の改修が完了しました。今年度も7月より第二期工事を行います。3階のトイレ、階段部分と1階、2階を改修します。ご迷惑をおかけしますが関係者皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>《各種検診のお知らせ》 新年度が始まり各種検診が始っております。 4月の内科・腎臓検診に続き、5～6月には歯科検診やプール前臨時健康相談等があります。元気に登校できるよう体調管理には気をつけましょう。</p>	<p>♪コラム♪ 「ドライ or ウエット？」 いきなり何の話かと思ったあなた・・・あなたの耳の中の話なんです。 そう、上品な言い方では「耳垢」ですか？耳〇〇というのが一般的ですが、大人になれば自分で耳かきをして掃除できるようになるし、時には膝枕でなんていうのも実によろしいですな。で、そのときの耳垢の状態がドライかウエットかによって祖先が縄文人か渡来系の弥生人かという、一般的にはよく聞く話ですよ。ドライなカサカサであれば弥生人系、ウエットであれば縄文人系の祖先であるといわれています。まさに耳〇〇のようなどうでもよい話ではありますが、1万年以上もの間、日本人として暮らしてきた我々の祖先の方々にほんの少しだけ思いを馳せてみました。</p>									
給食センター係	図書館									
<p>給食センターでは、平成27年4月1日から学校給食の調理・配送等の一部を、一富士フードサービス株式会社という、調理専門の業者へ業務委託しております。体制的には、今まで調理に携わってきた町の臨時調理員・配膳員の皆さんが会社に雇用され、都内会社から派遣された経験豊富な責任者と副責任者がチーフとなり、今まで通り町栄養士の指示・管理のもと調理・配送・配膳業務を行っております。給食費の算定や徴収は、町職員が従来通り事務を行い、再スタートを切りました。子供達に、今までと変わらぬ美味しい給食を提供します。</p> 	<p>※本の取り扱い方のお願い※ 図書館の本は住民の大切な財産です。汚損・破損がないように大切に取り扱いして下さい。本への書き込みや切り取り等は絶対にしないで下さい。万一、図書館の本を紛失、破損、汚損した時は速やかに現状のまま図書館へお届けください。また、本のお返却日はお守りください。 (大島町図書館)</p> <p>ひまわり号 平成26年度運行・貸出実績</p> <table> <tr> <td>北部地区</td> <td>17回</td> <td>369冊</td> </tr> <tr> <td>南部地区</td> <td>15回</td> <td>78冊</td> </tr> <tr> <td>保育園</td> <td>10回</td> <td>353冊</td> </tr> </table> <p>沢山のご利用ありがとうございます。今後ともひまわり号をご利用下さい。</p> 	北部地区	17回	369冊	南部地区	15回	78冊	保育園	10回	353冊
北部地区	17回	369冊								
南部地区	15回	78冊								
保育園	10回	353冊								